河内長野市文化財調査報告書第47輯

河内長野市埋蔵文化財調査報告書ＸＸⅥ

観心寺遺跡
烏帽子形城跡
三日市遺跡

２００７年３月

河内長野市教育委員会

序　　文

大阪府の南東部に位置する河内長野市は、豊かな自然に恵まれ、高野街道に代表される和歌山や奈良へ向かう街道の要衝として発展してきた街です。このため、市内には数多くの文化財が残されています。

この様な河内長野市も、大阪市内への通勤圏に位置しているため、住宅都市として発達してきました。この住宅開発がもたらした文化財や自然に対する影響は大きなものがあります。特に、地下に眠る埋蔵文化財は、開発と直接的に結び付く大きな問題です。

遺跡に託されている河内長野の先人達のメッセージである文化遺産を保護・保存し、現在の、更には未来の市民へと伝えていくことは、現代に生きる私達の責務であります。河内長野市に於いては、重要な課題である開発と文化財保護との調和のため、開発に先立ち埋蔵文化財の発掘調査を実施し、その把握に努めています。

本書は、発掘調査の成果を収録しています。皆様が先人達の残したメッセージの一部でもある文化財に対するご理解を深めて頂くと共に、文化財の保護・保存・研究するための資料として活用して頂ければ幸いです。

これらの発掘調査に協力して頂きました施主の方々の埋蔵文化財への深いご理解に、末尾ながら謝意を表すものです。

平成19年３月

河内長野市教育委員会
教育長　福　田　弘　行

例　　言

1．本報告書は、平成18年度文部科学省の国庫補助事業として、河内長野市教育委員会が実施した観心寺遺跡（ＫＳＴ05－１・06－１）、烏帽子形城跡（ＥＢＳ05－４）、三日市遺跡（ＭＩＣ06－２）の発掘調査報告書である。

2．発掘調査は、河内長野市教育委員会教育部社会教育課太田宏明・同課嘱託職員小林和美を担当者として実施した。

3．本書の執筆・編集は太田・小林が行なった。文責については太田が負うものである。

4．発掘調査及び内業整理については、下記の方々の参加・協力を得た。(敬称略)
池田和江・大西美智子・平松由紀・牟田口京子・周藤光代・谷口夫抄子・中野咲

5．写真撮影は、遺構については太田・小林、遺物については小林が行った。

6．発掘調査については下記の方々の協力を得た。(敬称略)
和泉大樹・千田嘉博・藤田哲也・宗教法人　観心寺

7．本調査の記録は、写真・実測図等の記録及び、カラースライドを作成した。また出土遺物については、市教育委員会で保管し、一部は市立ふれあい考古館で展示している。広く一般の方々に活用されることを望むものである。

凡　　例

1．本報告書に記載されている標高は、ＴＰを基準としている。

2．土色については、「新版標準土色帖」2003年度版による。

3．平面測量基準は、国家座標第Ⅵ系による５ｍメッシュを基準に実施したものである。

4．図中の北は、座標北である。

5．本書の遺構名は、下記の略記号を用いた。

ＳＢ…掘立柱建物	ＳＣ…炉	ＳＤ…溝・暗渠	ＳＥ…井戸
ＳＦ…道路	ＳＫ…土坑	ＳＬ…甕埋納遺構	ＳＮ…桶埋納遺構
ＳＯ…土釜埋納遺構（土公供遺構）		ＳＰ…遺物出土ピット	ＳＴ…墓
ＳＵ…集石・石敷遺構		ＳＷ…石垣・石組・石列	
ＳＸ…落ち込み・不明		ＮＲ…自然流路	ＮＶ…谷状地形

6．遺構実測図の縮尺は1/100・1/80・1/50である。

7．遺物実測図の縮尺は、土器1/4・漆器1/4・石器2/3・金属製品1/3・銅銭原寸を基準としているが、遺物の状況により変えている。

8．遺物名は、土師質土器を土師質、瓦質土器を瓦質、須恵質土器を須恵質と略称し、器種名を付した。

9．遺物の断面は、土師器・土師質土器・漆器・石製品が白抜き、須恵器・瓦器・瓦質土器・須恵質土器・陶磁器が黒塗り、瓦・木製品・金属製品が斜線である。

10．遺物番号と写真図版の番号は一致する。

目　　次

序文
例言
凡例
目次
挿図目次
表目次
図版目次
第１章　調査の状況……1
第２章　調査の結果……7
　第１節　観心寺遺跡（ＫＳＴ05－１）……7
　　１　遺跡の概略……7
　　２　調査に至る経緯と経過……7
　　３　調査結果……8
　　４　まとめ……11
　第２節　観心寺遺跡（ＫＳＴ06－１）……12
　　１　調査に至る経緯と経過……12
　　２　調査結果……12
　　３　まとめ……14
　第３節　烏帽子形城跡（ＥＢＳ05－４）……16
　　１　位置と環境……16
　　２　遺跡の概略……16
　　３　調査に至る経緯と目的……20
　　４　遺物……21
　　５　まとめ……21
　第４節　三日市遺跡（ＭＩＣ06－２）……22
　　１　概略……22
　　２　調査の方法と層序……22
　　３　調査の結果……23
　　４　まとめ……23

挿　図　目　次

第１図　河内長野市遺跡分布図（1/40000）……4
第２図　ＫＳＴ05－１・ＫＳＴ06－１調査区位置図（1/1000）……7
第３図　ＫＳＴ05－１調査区配置図（1/300）……8
第４図　ＫＳＴ05－１調査区平面図・土層断面図（1/80）……9
第５図　ＫＳＴ05－１出土土器実測図（1/4）……10
第６図　ＫＳＴ05－１出土鉄器遺物実測図（1/2）……11
第７図　ＫＳＴ06－１調査区配置図（1/300）……12
第８図　ＫＳＴ06－１調査区平面図・土層断面図（1/50）……13
第９図　ＥＢＳ05－４調査区位置図（1/1000）……17・18
第10図　ＥＢＳ05－４出土遺物実測図１（1/4）……20
第11図　ＥＢＳ05－４出土遺物実測図２（1/4）……21
第12図　ＭＩＣ06－２調査区位置図（1/2500）……22
第13図　ＭＩＣ06－２出土遺物実測図（1/4）……23

表　目　次

第１表　発掘届出件数月別一覧表……1
第２表　主な発掘調査一覧……1～3
第３表　河内長野市遺跡地名表……5

図　版　目　次

図版１　遺構　ＫＳＴ05－１　第１調査区全景（北から）
図版２　遺構　ＫＳＴ05－１　第２調査区全景（南東から）
図版３　遺構　ＫＳＴ05－１　第３調査区全景（北から）
図版４　遺物　ＫＳＴ05－１　ＥＢＳ05－４出土遺物
図版５　遺構　ＫＳＴ06－１　第１調査区全景（南から）、第２調査区全景（南西から）
図版６　遺構　ＫＳＴ06－１　第３調査区全景（南東から）
図版７　遺構　ＫＳＴ06－１　第４調査区全景（北東から）、第５調査区全景（南西から）
図版８　遺物　ＥＢＳ05－４　ＭＩＣ06－２出土遺物

第１章　調査の状況

平成18年の文化財保護法93・94・96条による発掘届及び発掘通知の件数は、総数102件、そのうち発掘届78件、発掘通知23件、新規発見通知１件である。

今年の発掘届にみられる原因者の状況は例年並であったが、本発掘調査まで至ることは少なかった。

第１表　発掘届出件数月別一覧表

（平成18年１～12月）

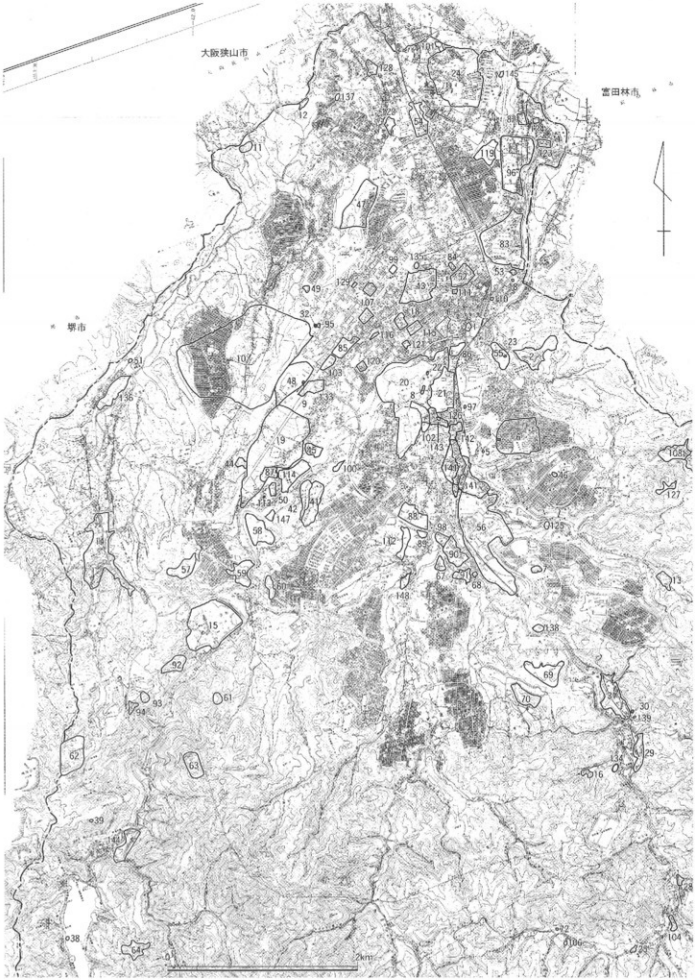
	平成17年度			平成18年度									総数
	１月	２月	３月	４月	５月	６月	７月	８月	９月	10月	11月	12月	
発掘届（93条）	6	8	6	2	13	7	6	5	4	11	5	5	78
発掘通知（94条）	0	0	0	0	0	4	10	5	1	3	0	0	23
発見届（96条）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
発見通知（97条）	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1

第２表　主な発掘調査一覧

遺跡名	調査期間	原因者	事業面積(㎡)	用途	種別	区分	備考
烏帽子形城跡 EBS05－4	H18.1.16 ～2.24	河内長野市 教育委員会教育長	20.00	学術調査	発掘調査	国庫	中世の山城の土塁・壕を検出、中世の瓦・瓦質土器・土師質土器が出土。
試掘調査	H18.1.20	企業	649.92	店舗・倉庫・事務所	試掘調査		遺構・遺物なし
試掘調査	H18.1.23 ～1.27	河内長野市市長	220.00	道路	試掘調査		遺構・遺物なし
市町東遺跡・東高野街道 ICE05－3	H18.2.15	企業	133.18	共同住宅	発掘調査		遺構・遺物なし
西代藤陣屋跡 NDH05－2	H18.2.17	個人	386.62	専用住宅	発掘調査		遺構・遺物なし
試掘調査	H18.2.17	河内長野市	36,900.00	汪場整備	試掘調査		遺構・遺物なし
天野山金剛寺遺跡 KGT05－3	H18.2.20 ～4.24	企業	4.00	電気	立会調査		遺構・遺物なし
試掘調査	H18.2.28	個人	1,075.88	専用住宅	試掘調査		遺構・遺物なし
西高野街道 KYR05－5	H18.2.28	個人	418.03	専用住宅	発掘調査		遺構・遺物なし
烏帽子形城跡 EBS05－5	H18.3.10	団体	15.00	製炭窯の築造	立会調査		遺構・遺物なし
市町北遺跡 ICN05－1	H18.3.16	個人	1,369.91	診療所・調剤薬局	発掘調査		遺構・遺物なし
観心寺遺跡 KST05－1	H18.3.22 ～3.30	河内長野市 教育委員会教育長	23.00	学術調査	発掘調査	国庫	本書掲載
試掘調査	H18.3.24	企業	761.39	分譲住宅	試掘調査		遺構・遺物なし
試掘調査	H18.3.27	企業	1,598.33	分譲住宅	試掘調査		遺構・遺物なし

遺跡名	調査期間	原因者	申請面積(㎡)	用途	種別	区分	備考
塩谷遺跡 SIO05－3	H18.3.29	個人	222.62	専用住宅	発掘調査		遺構・遺物なし
試掘調査	H18.3.31	企業	1,092.73	賃貸共同住宅	試掘調査		遺構・遺物なし
烏帽子形城跡 EBS06－1	H18.4.6	企業	1,696.96	分譲住宅	発掘調査		遺構・遺物なし
高向遺跡 TKO06－1	H18.4.13 ～4.19	社会福祉法人	3,181.64	特別養護老人ホーム	発掘調査		古墳時代の溝・ピットを検出、古墳時代の須恵器、サヌカイト剥片が出土。
試掘調査	H18.4.13	企業	2,058.50	分譲住宅	試掘調査		遺構・遺物なし
清明塚	H18.4.20	個人	132.24	駐車場	発掘調査		遺構・遺物なし
購所遺代官所跡 ZZH06－1	H18.5.8	個人	17.005	専用住宅	発掘調査	国庫	遺構・遺物なし
富多町遺跡 KTC06－1	H18.5.12	個人	88.38	専用住宅	発掘調査		遺構・遺物なし
試掘調査	H18.5.15	個人	1,289.11	分譲住宅	試掘調査	国庫	遺構・遺物なし
試掘調査	H18.6.2	社会福祉法人	2,586.82	老人福祉施設	試掘調査		遺構・遺物なし
三日市遺跡 MIC06－1	H18.6.8	個人	232.60	個人住宅	発掘調査	国庫	遺構・遺物なし
川上神社遺跡 KKG06－1	H18.6.14	個人	742.00	神社	発掘調査		遺構・遺物なし
三日市北遺跡 MIN06－1	H18.6.20	個人	307.60	個人住宅	発掘調査	国庫	遺構・遺物なし
観心寺遺跡 KST06－1	H18.7.10 ～7.21	河内長野市 教育委員会教育長	6.00	範囲確認調査	発掘調査	国庫	本書掲載
長池遺跡群 NIK06－1	H18.7.11 ～7.13	大阪府富田林 土木事務所	8,000.00	道路	発掘調査		遺構・遺物なし
試掘調査	H18.7.19	個人	957.27	物販店舗	試掘調査		遺構・遺物なし
高野街道 KYR06－1	H18.7.24	個人	90.90	個人住宅	発掘調査		遺構・遺物なし
烏帽子形城跡 EBS06－2	H18.7.27	企業	871.47	分譲住宅	発掘調査		遺構・遺物なし
高野街道 KYR06－2	H18.7.31	個人	431.20	個人住宅	発掘調査		中世の土師質土器・瓦器が出土。
試掘調査	H18.8.3 ～8.4	個人	1,503.60	物販店舗	発掘調査		弥生土器が出土。
観心寺遺跡 KST06－1	H18.8.7 ～8.8	河内長野市 教育委員会教育長	5.00	範囲確認調査	発掘調査		本書掲載
天野山金剛寺遺跡 KGT06－1	H18.8.22 ～12.8	宗教法人	3.70	社寺	発掘調査		中世墓を検出、中世の陶器・白磁・瓦質土器、近世の土師質土器・銭貨が出土。
試掘調査	H18.7.28 ～8.8	河内長野市長	1,160.00	道路	試掘調査		遺構・遺物なし
試掘調査	H18.9.8	企業	1,528.15	自動車販売所	試掘調査		遺構・遺物なし
烏帽子形城跡 EBS06－3	H18.9.8	河内長野市長	411.00	下水道	立会調査		遺構・遺物なし
試掘調査	H18.9.20	個人	10,710.00	埋立農地造成	試掘調査		遺構・遺物なし

遺　跡　名	調査期間	原　因　者	申請面積(㎡)	用　　途	種別	区分	備　　考
脇所藤代宮所跡 ZZH06－2	H18.9.29	個人	175.75	個人住宅	立会調査		遺構・遺物なし
三日市遺跡 MIC06－2	H18.10.13 ～10.4	個人	227.94	個人住宅	発掘調査	国庫	本書掲載
塚遺跡 TUK06－1	H18.10.16 ～10.20	河内長野市長	2,000.00	道路	試掘調査		サヌカイト・須恵器・土師器・瓦器が出土。
高向遺跡 TKO06－2	H18.10.17	河内長野市水道局	10.00	水道	立会調査		遺構・遺物なし
日野観音寺遺跡 HKT06－1	H18.10.20	河内長野市長	525.00	下水道	立会調査		遺構・遺物なし
天野山金剛寺遺跡 KGT06－2	H18.11.1	企業	121.80	業用住宅	発掘調査		遺構・遺物なし
塩谷遺跡 SIO06－1	H18.11.16	企業	2,883.21	病院職員用共同住宅	発掘調査		遺構・遺物なし
三日市遺跡 MIC06－3	H18.11.20	個人	429.16	共同住宅	発掘調査		遺構・遺物なし
烏帽子形城跡 EBS06－4	H18.11.22	企業	2,994.32	分譲戸建住宅	発掘調査		遺構・遺物なし
喜多町遺跡 KTC06－1	H18.11.27	個人	162.89	個人住宅	発掘調査		遺構・遺物なし
試掘調査	H18.11.30	企業	291.58	自家用倉庫	試掘調査		遺構・遺物なし
試掘調査	H18.12.01	企業	1,045.80	戸建専用住宅	試掘調査		遺構・遺物なし
栄町遺跡 SKC06－1	H18.12.11	個人	140.73	個人住宅	発掘調査	国庫	遺構・遺物なし
試掘調査	H18.12.12	企業	2,651.33	葬儀会館	試掘調査		遺構・遺物なし



第１図　河内長野市遺跡分布図（1/40000）

番号	文化財名称	種類	時代
1	長野神社遺跡	社寺	室町以降
2	河合寺遺跡	神寺	平安以降
3	観心寺遺跡	神寺	平安以降
4	大師山古墳	古墳	古墳（後期）
5	大師山南古墳	古墳？	古墳（後期）
6	大師山遺跡	集落・生産	弥生（後期）～平安
7	梅塚寺遺跡	社寺	中世以降
8	烏帽子形八幡神社遺跡	社寺	室町以降
9	塚穴内墳	古墳・横墓	古墳（後期）～近世
10	長池遺跡群	生産	平安～近世
11	小辻田1号古墳	墳墓	弥生
12	小辻田2号古墳	墳墓	弥生
13	結命寺遺跡	社寺	平安以降
14	天満山金剛寺遺跡	社寺・墳墓	平安以降
15	山野観音寺遺跡	神寺・年輩	縄文・平安～近世
16	地蔵寺遺跡	社寺	中世以降
(17)	岩瀬寺遺跡	社寺	平安以降
18	五ノ木古墳	古墳	古墳（後期）
19	南向洗跡	集落	旧石器～中世
20	烏羽子形城跡	城郭・生産	中世～近世
21	西多町遺跡	集落	縄文・古墳～平世
22	応神子形古墳	古墳	古墳（後期）
23	玉恵殿跡	生産	中世
24	温谷遺跡	散布地	縄文～近世
25	流谷八幡神社	社寺	平安以降
26	城井遺跡群	散布地	中世
27	飯井遺北遺跡	散布地	中世
28	天見伏北方遺跡	散布地	中世
29	千早口関所遺跡	社寺	中世以降
30	岩瀬東海寺遺跡	社寺	中世以降
31	酒水洗跡	散布地	中世
32	伝「弾良殿」古墳	古墳？	
(33)	金村地蔵金跡	社寺	近世
(34)	滝畑原遺	墳墓	近世
(35)	中村阿弥陀堂跡	社寺	近世
(36)	東の村観音堂跡	社寺	近世
(37)	西の村観音堂跡	社寺	近世
38	清水阿弥陀堂跡	社寺	近世
39	流氏弥勒金跡	社寺	近世
(40)	宮の下古墳	墳墓	古墳
41	宮山古墳	古墳	古墳
42	宮前遺跡	集落	縄文・奈良
43	西代遺跡群	散布地・城郭	鎌倉～奈良・江戸
44	上原町墓地	墳墓	近世
45	楚神寺跡	散布地・社寺	縄文・奈良・鎌倉
46	黒山遺跡	墳郭	中世～近世
47	立ヶ池遺跡	散布地	縄文
48	上原遺跡	散布地	旧石器～近世
49	作吉神社遺跡	社寺	近世以降
50	高向神社遺跡	社寺	中世以降
51	吉野原神社遺跡	社寺	中世以降
52	諸所藩代官所跡	城郭	江戸
53	瓦子城古墳跡	古墳	古墳
54	寺子城遺跡	散布地・社寺	縄文～近世
55	内谷寺城跡	城郭	中世
56	三上古墳遺跡	墳墓・古墳地	旧石器～近世
57	月の宮城跡	城郭	中世
58	南木城跡	散布地	縄文
59	沙の山城跡	城郭	中世
60	雄山城跡	城郭	中世
61	稲荷山城跡	城郭	中世
62	国見城跡	城郭	中世
63	広瀬城跡	城郭	中世
64	秋附城跡	城郭	中世
(65)	大神社遺跡	社寺	中世以降
(66)	恩城第15段城	経塚	平安以降
67	加賀田神社遺跡	社寺	中世以降
68	民申堂遺跡	社寺	近世以降
69	石仏城跡	城郭	中世
70	佐近城跡	城郭	中世
71	旗尾城跡	城郭	中世
72	恩城第16段城	経塚	平安以降
(73)	恩城第18経塚	経塚	平安以降
(74)	恩城第19段塚	経塚	平安以降

番号	文化財名称	種類	時代
(75)	辻尾遺	城郭	中世
(76)	人沢城	城郭	中世
(77)	三国山砦	砦城	平安以降
(78)	光蓮寺遺跡	社寺	中世以降
(79)	畳子城跡	城郭	中世
80	鷲峰神社遺跡	社寺	中世以降
81	川上神社遺跡	社寺	中世以降
82	千代川神社遺跡	社寺	中世以降
83	向野遺跡	集落・生産	縄文・平安～近世
84	古野町遺跡	散布地	中世
85	上原北遺跡	集落	中世
86	大山寺遺跡	社寺・墳墓	弥生～古墳（後期）
87	高向窯遺跡	散布地	縄文
88	小辻遺跡	集落	縄文～奈良
89	加埜遺跡	集落	古墳（後期）
90	塩崎遺跡	集落	古墳～中世
91	ジョウノヤス遺跡	城郭？	中世
92	七王山城跡	城郭	中世
93	タコラ城跡	城郭	中世
94	岩立城跡	城郭	中世
95	上原近世瓦窯	生産	近世
96	市町遺跡	散布地	弥生～中世
97	上田町城跡	年輩	近世
98	民城北遺跡	集落	古墳～中世
99	西之山町遺跡	散布地	中世
100	野鹿遺跡	集落	平安
101	陽炎遺跡	散布地	中世
102	上田町遺跡	散布地	古墳・中世
103	上原竹遺跡	散布地	古墳・中世
104	小野原遺跡	墳墓	中世
(105)	恩城第17経塚	経塚	平安以降
106	東脇遺跡	社寺	中世以降
107	野作遺跡	生産	中世
108	宮元遺跡	集落・社寺	縄文 奈良・中世
(109)	鳴原遺跡	散布地	中世
110	法隆城古墳跡	古墳	古墳
111	山上諸比古遺跡	古墳	古墳
112	西垣遺跡	集落	古墳・中世・近世
113	地福寺遺	社寺	近世
114	宮の下遺跡	集落	平安～中世
115	宮町遺跡	散布地	弥生・古墳・中世
116	鎌町遺跡	散布地	中世
(117)	太井遺跡	散布地	縄文・中世
118	勝町北遺跡	集落	弥生・中世・近世
119	市町西遺跡	集落	縄文・中世
120	栄町南遺跡	散布地	中世
121	栄町東遺跡	散布地	奈良～中世
122	塩倉東遺跡	散布地	奈良
123	沙の宮町南遺跡	散布地	弥生・奈良
124	沙の宮町遺跡	散布地	中世
125	佐野反元遺跡	墳墓	近世
126	増福寺	社寺	中世以降
127	二条城遺跡	集落・城郭	中世・近世
128	松林寺遺跡	社寺	近世以降
129	姫路町遺跡	散布地	中世
*130	家島駅街道	街道	平安以降
*131	西島駅街道	街道	平安以降
*132	関野駅街道	街道	平安以降
133	上田東遺跡	散布地	弥生・中世・近世
134	法隆寺東方遺跡	環濠	弥生・鎌倉
135	本多町北遺跡	散布地	中世
136	下平町遺跡	散布地	古墳・中世
137	あかしあ台遺跡	散布地	近世
138	岩瀬北城跡	集落	中世
139	若狭近畿道路地	環濠	近世
140	姫路町東遺跡	散布地・墳墓	縄文・中世・近世
141	二日市化遺跡	集落	縄文・弥生～中世
142	三宮駅	鉄道駅に伴う集落	中世～近世
143	上田町駅	鉄道駅に伴う集落	中世～近世
144	鳴尻遺跡	散布地	縄文・古代・中世
145	市町遺跡	散布地	中世
146	太内遺跡	散布地	中世
*147	高向神社由遺跡	墳墓	古墳
148	塚遺跡	散布地	弥生・古墳・中世

（　）は地図範囲外　*は街道につき地図上にはプロットせず

第3表　河内長野市遺跡地名表

第２章　調査の結果

第１節　観心寺遺跡（ＫＳＴ05－１）

１．遺跡の概略

観心寺遺跡は、石川の支流である石見川北岸に位置し、標高200mの丘陵斜面地に立地する。当寺院は、８世紀創建の伝承をもつが、９世紀に再興されたことが寺伝によって伝えられており、文献史料の記録や発掘調査等によって現在につながる境内の造成や伽藍の整備が12世紀に行なわれたことが明らかになっている。

現在は、楠本院と中院の２箇所の子院が残っているが、かつては48箇所の子院があったと伝えられている。

既往の発掘調査については、まず昭和54年から59年にかけて金堂の解体修理にともなって行なわれており、現金堂に先行する平安時代の前身建物が存在したことが確認され、平安時代から鎌倉時代にかけての瓦が出土した。平成元年には、ポンプ場の建設と送水管・電線管の埋設にともない、かつて子院があったとされる「奥谷坊」付近が調査され、石積井戸や窯が検出され、平安時代から鎌倉時代にかけての遺物が出土した。

観心寺遺跡周辺の発掘調査については、寺元遺跡から10世紀以降に形成された集落と寺院の遺構が検出されている。集落については寺領である寺元の村落の一部であり、寺院遺構については子院のひとつである真福院である可能性が高いと考えられる。

２．調査に至る経緯と経過

本次調査は、国史跡観心寺境内における、庫裏の建替えについての計画策定のために行っ

第２図　ＫＳＴ05－１・ＫＳＴ06－１調査区位置図（1/1000）

第３図　ＫＳＴ05－１調査区配置図（1/300）

た範囲確認調査である。平成17年11月に宗教法人観心寺から史跡地内で庫裏の建替えを行いたいとの申し出が河内長野市教育委員会にあった。協議の結果、遺構への影響が少なく、庫裏の建築が可能なスペースが確保できる場所を選定し、範囲確認調査の計画を策定した。あわせて現状変更許可申請書を大阪府教育委員会を経由して文化庁に提出した。現状変更については平成18年１月30日付で許可がおり、範囲確認調査を平成18年３月24日～３月31日にかけて実施した。

３．調査結果（第３～５図、図版１～４）

範囲確認調査では、第１～第４調査区を設定した。以下に各調査区の調査成果についてのべる。

A．第１調査区

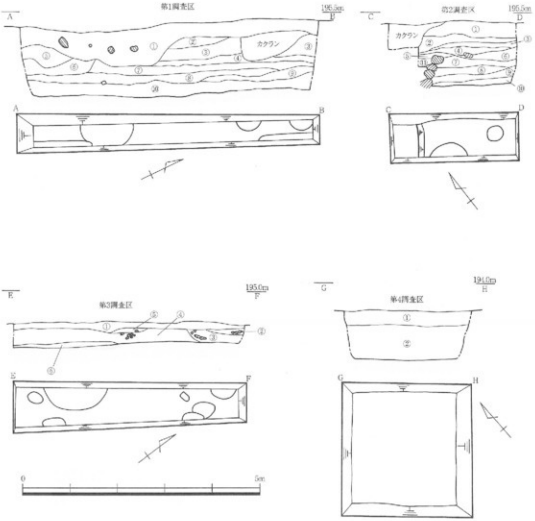
第１調査区は、長さ6.4m、幅１mに設定した。基本層序は現地表面から耕土（①層）、堆積土（②層～⑨層）、中世の遺物包含層（⑩層）であった。なお、②～⑨層からも中世の遺物が若干出土している。

遺構は、地山上面で検出された。検出された遺構は、ピット、土坑、溝である。これらの遺構については、範囲確認調査という調査の趣旨から掘削を行なわなかった。

遺物は、⑩層より出土した瓦器椀（10）、⑨層から出土した小型瓦器椀（11）、瓦質土器の火舎（12）、瓦質土器の火消し壺の蓋（13）が図化できた。

B．第２調査区

第２調査区は、長さ2.8m、幅１mに設定した。基本層序は現地表面から耕土（①層）、



第１調査区

① 10YR4/1　褐灰色　　粗砂混じり細砂～微砂
（旧耕土）
② 10YR6/2　灰黄褐色　　粗砂～細砂
③ 10YR6/3　にぶい黄橙色　粗砂混じり細砂～微砂
④ 10YR5/2　灰黄褐色　　粗砂混じり細砂～微砂
⑤ 10YR6/3　にぶい黄橙色　粗砂混じり微砂
⑥ 10YR3/2　黒褐色　　粗砂混じり微砂～シルト
⑦ 10YR6/3　にぶい黄橙色　粗砂混じり細砂～微砂
（10YR8/6黄橙色　シルトのブロックを多く含む。）
⑧ 10YR5/2　灰黄褐色　　粗砂～細砂
⑨ 10YR7/3　にぶい黄橙色　粗砂～細砂
⑩ 10YR5/3　にぶい黄橙色　粗砂～細砂混じりシルト
（中世の遺物包含層）

第３調査区

① 10YR5/2　灰黄褐色　　粗砂混じり細砂～微砂
（旧耕土）
② 10YR6/4　にぶい黄橙色　粗砂混じりシルト
（10YR8/6黄橙色シルトのブロックを多く含む。）
③ 10YR6/4　にぶい黄橙色　粗砂混じりシルト
④ 10YR6/4　にぶい黄橙色　粗砂混じりシルト
（10YR5/2灰黄褐色粗砂のブロックを含む。）
⑤ 10YR5/4　にぶい黄褐色　粗砂混じりシルト
⑥ 10YR4/3　にぶい黄褐色　粗砂混じりシルト
（10YR8/6黄橙色シルトのブロックを含む。）

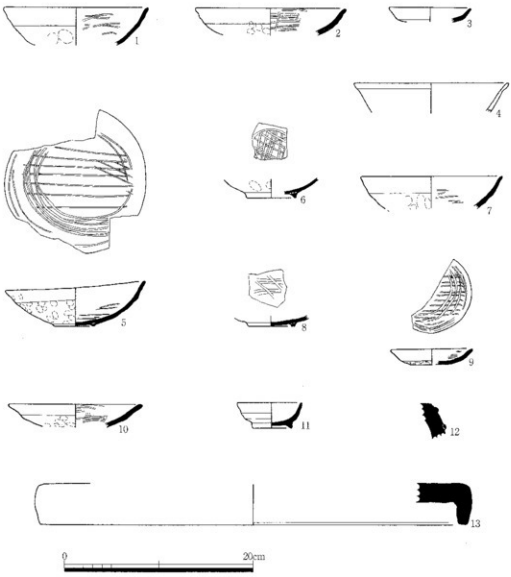
第２調査区

① 10YR4/2　灰黄褐色　　粗砂混じり微砂～シルト
（旧耕土）
② 7.5YR4/2　灰褐色　　粗砂～微砂
（10YR8/4浅黄橙色　微砂～シルトのブロックを含む。）
③ 10YR5/3　にぶい黄橙色　粗砂～微砂
（10YR8/4浅黄橙色　微砂～シルトのブロックを多く含む。）
④ 10YR5/2　灰黄褐色　　粗砂混じり微砂～シルト
（炭化物を若干含む。）
⑤ 10YR6/2　灰黄褐色　　微砂～細砂
⑥ 10YR6/2　灰黄褐色　　微砂～細砂
⑦ 10YR6/3　にぶい黄橙色　微砂～細砂
⑧ 10YR5/2　灰黄褐色　　微砂～細砂混じりシルト
（10YR8/4浅黄橙色　微砂～シルトのブロックを含む。）
⑨ 10YR4/1　褐灰色　　微砂～細砂混じりシルト
⑩ 10YR6/3　にぶい黄橙色　細砂
⑪ 10YR4/2　灰黄褐色　　微砂～シルト

第４調査区

① 10YR5/2　灰黄褐色　　粗砂混じり細砂～微砂
② 10YR6/4　にぶい黄橙色　粗砂混じりシルト
（10YR5/2灰黄褐色粗砂のブロックを含む。）

第４図　ＫＳＴ05－１調査区平面図・土層断面図（1/80）



第５図　ＫＳＴ05－１出土土器実測図（1/4）

堆積土（②層～⑨層）、中世の遺物包含層（⑩層）であった。なお、②～⑨層からも中世の遺物が若干出土している。

遺構は、埋没した石垣が検出された。⑦層上面は、石垣が機能していた時点の地表面と考えられるが、⑦層上面から遺構は検出できなかった。その他、地山上面でピット、土坑を検出した。範囲確認調査という調査の趣旨から掘削を行なわなかった。

遺物は、中世の瓦器、土師質土器が出土したが、いずれも細片であったため図化できなかった。

⑦層より以上の堆積土と、⑦層以下の堆積土で出土した遺物の年代差は認められなかったが、⑦層以上の堆積土に包含されている遺物の量は大変希薄であった。

C．第３調査区

第３調査区は、長さ５ｍ、幅１ｍに設定した。基本層序は、現地表面から耕土（①層）、

堆積層（②層～⑥層）であった。②～⑥層からは、中世の遺物が若干出土している。

遺構は、地山上面で検出された。検出された遺構は、ピット、土坑である。範囲確認調査という調査の趣旨から掘削を行なわなかった。

遺物は，④層から出土したものとして瓦器埦（2）、瓦器皿（3）、貿易陶磁の青磁碗（4）があり、⑥層から出土したものとして瓦器埦（5～8）、瓦器皿（9）があった。この他、不明鉄器（14）も⑥層より出土している。当該調査区から出土した遺物は、いずれも13世紀の様相を示すものである。

第６図　ＫＳＴ05－１出土鉄器遺物実測図（1/2）

D．第４調査区

第４調査区は、長さ2.9m、幅2.9mに設定した。基本層序は、現地表直から造成土（①層・②層）であった。遺構は、検出されなかった。

遺物は、①層・②層より中世の瓦器埦、土師質土器が出土したが、いずれも細片であったため図化できなかった。

４．まとめ

第１～４調査区の合計で４箇所の調査区の設定を行ない、確認調査を実施した。この結果、第１～３調査区の３ヶ所で遺構が確認できた。遺構が確認できた３箇所の調査区は、地表面の標高が異なっているにも関わらず、遺構面の標高はおおむね一定していた。一方で、遺構が確認できなかった第４調査区では、より深い場所から地山が検出されており、第４調査区周辺では地山が低くなっていることが指摘できる。

（太田）

第２節　観心寺遺跡（ＫＳＴ06－１）

１．調査に至る経緯と経過

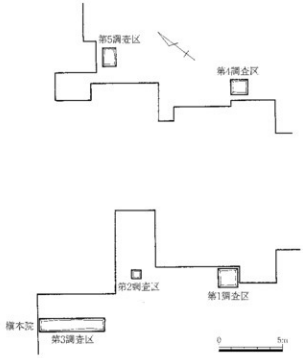
先述した観心寺遺跡の範囲確認調査（KST05－１）によって、庫裏建設予定地から中世の遺構・遺物が検出され、建築予定地の変更を行なう必要が生じた。このことを受けて宗教法人観心寺と協議を行ない、新たに庫裏建設予定地を選定し、当該地での範囲確認調査のための計画の策定を行なった。その後、範囲確認調査を行なうために平成18年５月23日付けで、大阪府教育委員会を経由して文化庁に現状変更許可申請を行い、平成18年６月16日に許可がおりた。範囲確認調査は、平成18年７月10日～８月７日にかけて行なった。

２．調査成果（第７・８図、図版５～７）

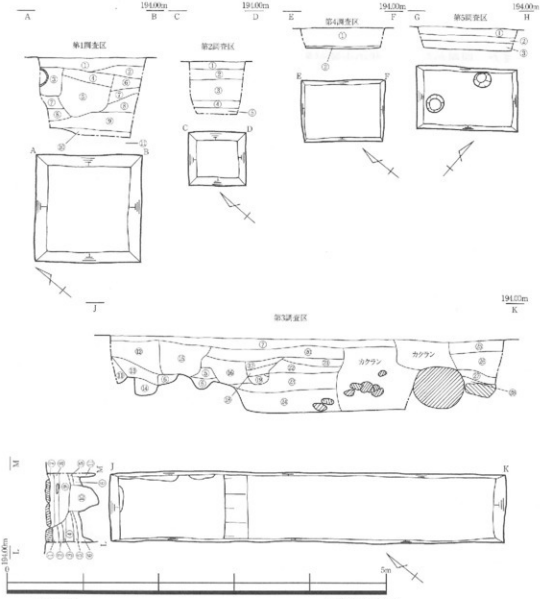
今回の調査では、新たに計画した庫裏建設予定地の周辺に第１～第５の５箇所の調査区を設定し、遺構の有無や堆積している層の確認を行なった。以下に各調査区の調査成果についてのべる。

A．第１調査区

第１調査区は、一辺1.5mに設定した。基本層序は、現地表面から表土（①層～②層）、造成土層（⑥層～⑧層）、自然堆積層（⑨・⑩層）であった。



第７図　ＫＳＴ06－１調査区配置図（1/300）



第1調査区

① 7.5YR6/1 褐灰　細砂まじりシルト
(10YR7/6明黄褐細砂まじりシルトのブロックを多く含む。)
② 10YR5/2 灰黄褐　細砂まじりシルト
③ 10YR6/2 灰黄褐　細砂まじりシルト
(10YR7/6明黄褐細砂まじりシルトのブロック（直径3～5cmの角ばる）を含む。)
④ 10YR5/3 にぶい黄褐　細砂まじりシルト
⑤ 10YR6/3 にぶい黄褐　粗砂まじり細砂～シルト
(10YR8/4浅黄橙シルトのブロック（最径3～5cmの角ばる）を含む。)
⑥ 7.5YR7/4 にぶい橙　粗砂まじり細砂
⑦ 10YR6/1 褐灰　シルト～粘砂
(10YR7/6明黄褐細砂のブロック（直径3～5cmの角ばる）を含む)
⑧ 10YR6/2 灰黄褐　細砂まじりシルト
(2.5YR8/2灰黄褐シルトのブロック（最径3～5cmの角ばる）を少量含む)
⑨ 2.5Y5/1 黄灰　シルト～粘砂（遺物を包含）
⑩ N8/0 灰　粗砂
⑪ 2.5Y8/6 黄　シルト～粘砂

第2トレンチ北壁断面図

① 10YR5/1 褐灰　粗砂まじり細砂
② 10YR5/2 灰黄褐　粗砂まじり細砂
③ 10YR6/1 褐灰　細砂まじりシルト
(10YR8/6黄橙粘土ブロック含む)
④ 10YR3/1 黒褐　埋粘土じりシルト
⑤ 2.5Y6/1 黄灰　シルト～粘砂

第4トレンチ断面図

① 10YR4/2 灰黄褐　レキ混じり粗砂
② 10YR4/2 灰黄褐　レキ混じり粗砂

第5トレンチ断面図

① 10YR4/2 灰黄褐　レキ混じり粗砂
② 10YR5/2 灰黄褐　粗砂まじりシルト
③ 10YR6/2 灰黄褐　粗砂まじり細砂

第3トレンチ断面図

① 2.5Y6/2 灰黄　粗砂まじり細砂
② 2.5Y7/6 明黄褐　粗砂まじり細砂
③ 2.5Y6/2 灰黄　粗砂まじり細砂～シルト
④ 2.5Y8/6 黄　粗砂まじりシルト
(2.5Y7/2灰黄シルトのブロック含む)
⑤ 2.5Y6/2 灰黄　粗砂まじりシルト
⑥ 2.5Y8/6 黄　粗砂まじりシルト
⑦ 2.5Y7/2 灰黄　粗砂まじり細砂
⑧ 5YR7/4 にぶい橙　レキまじり粗砂
⑨ 10YR5/1 褐灰　粗砂まじりシルト
⑩ 10YR5/4 にぶい黄橙　粗砂まじりシルト
⑪ 10YR6/3 にぶい黄橙　レキまじりシルト
⑫ 10YR6/3 にぶい黄橙　レキまじりシルト
⑬ 10YR5/1 褐灰　レキまじり細砂
⑭ 7.5YR7/1 明褐灰　シルト～粘土
⑮ 10YR5/2 灰黄褐　粗砂まじり細砂
⑯ 10YR6/3 にぶい黄橙　粗砂まじりシルト
⑰ 10YR6/2 灰黄褐　粗砂まじりシルト
(10YR8/4浅黄橙粗砂まじりシルトブロック含む)
⑱ 10YR5/2 灰黄褐　粗砂まじりシルト
⑲ 2.5Y8/1 白磁　シルト
⑳ 10YR7/3 にぶい黄橙　粗砂まじりシルト
㉑ 10YR6/4 にぶい黄橙　粗砂まじりシルト
㉒ 10YR5/2 灰黄褐　粗砂まじりシルト
(10YR8/4浅黄橙シルトのブロック含む)
㉓ 10YR5/1 褐灰　粗砂まじりシルト
㉔ 10YR5/4 にぶい黄褐　粗砂まじり細砂～シルト
㉕ 10YR5/3 にぶい黄褐　粗砂まじり細砂
㉖ 10YR6/2 灰黄褐　レキまじり細砂～細砂
(10YR7/4にぶい黄橙シルトのブロックを含む)
㉗ 10YR6/1 褐灰　細砂～シルト
㉘ 10YR6/3 にぶい黄橙　細砂～シルト
(10YR8/3浅黄橙シルトブロック含む)

第８図　ＫＳＴ06－１調査区平面図・土層断面図 (1/50)

遺構は検出されなかった。

遺物は、造成土層から近世以降の瓦片が出土したが細片であったため図化できなかった。また、同層からは近現代の土管が多く出土した。自然堆積層からは、土師質の羽釜の細片が出土したものの、図化はできなかった。なお、この他に遺物は出土しなかった。

B．第２調査区

第２調査区は、一辺0.7mに設定した。基本層序は、現地表面から、表土（①層）、造成土層（②層～④層）、自然堆積層（⑤層）であった。湧水が著しく、深さ70cm以下を掘削できず、地山面を検出することができなかった。

第２調査区からは遺構・遺物ともに検出されなかった。

C．第３調査区

第３調査区は、長さ５m、幅１mに設定した。基本層序は、現地表面から、槙本院建築時の造成土層（①層～⑥層）、近現代の造成土層（㉑層～㉘層）、近現代造成以降の堆積土層（⑦層～⑩層・⑫～㉑層）で構成される。槙本院の造成土は、地山上に、６層にわたって水平に盛られていた。槙本院東端から東へ1.6mの地点では、地山の急な勾配が認められ、0.5mほど低くなっている。槙本院の造成土はこの地点以西でみとめられる。

第３調査区からは、遺構・遺物ともに検出されなかった。

D．第４調査区

第４調査区は、長さ1.1m、幅0.9mに設定した。基本層序は、現地表面から造成土（①層～②層）であった。造成土の下層からは地山が検出された。

第４調査区からは、遺構・遺物ともに検出されなかった。

E．第５調査区

第５調査区は、長さ1.4m、幅0.9mに設定した。基本層序は、上層から造成土（①～③層）であった。造成土の下層から地山が検出された。

第５調査区からは、遺構・遺物ともに検出されなかった。

３．まとめ

新築建物建設予定地の周辺に第１～第５調査区の合計で５箇所の調査区の設定を行い、確認調査を実施した。第１・２・３調査区では0.5～0.8mの厚さで造成がなされており、造成の時期は第１調査区で出土した土管から近・現代と考えられる。また、これらの調査区で認められた造成土は、ＫＳＴ05－１第４調査区で認められた造成土と一連のものと考えられる。

横本院車裏付近に設置した第３調査区に限って、横本院建築に伴うとみられる近世の造成土が認められた。

また調査地の周囲の状況を述べると、今回範囲確認調査を行なった場所の北には、丘陵がのびており、南は斜面地となっている。調査地は、現在は平坦に造成されているが、本来は南向きの斜面地であったと考えられる。

（太田）

第３節　烏帽子形城跡（ＥＢＳ05－４）

１．位置と環境

烏帽子形城跡は、市内南部に位置する金剛・葛城山系より北方向に派生する烏帽子形山の山頂部に位置する。烏帽子形山の標高は、182mであり、それほど高くはないが、部分的に急な斜面を有する腰高い丘陵であり、市内を一望することができる。烏帽子形山の西側は石川が南西から北東へ向かって流れており、東側は天見川が蛇行しながら南から北へ流れている。両河川は、烏帽子形山の北東300mで合流している。したがって、南側を除いた東・西・北の３方向は、これらの河川に囲まれている。

烏帽子形城跡の東側裾部には、高野街道が南北に走っている。高野街道は烏帽子形城跡の北１kmの地点で、東高野街道と西高野街道が合流し一本化した後、この城跡に向かって一度、西方向に折れた後、東方向に再び折れて、烏帽子形城跡の南500mにある近世に宿場町として栄えた三日市宿跡へ至る。その後は、国境の紀見峠を越えて紀伊へ至る。烏帽子形城跡の西山麓には和泉街道が走っており、同街道を押さえる交通の要衝に位置しているといえる。

周囲には、北方向に、栄町遺跡、栄町東遺跡、北東方向に大日寺遺跡、東方向に喜多町遺跡、南東方向に上田町遺跡が、西方向にはやや離れるものの上原東遺跡が位置している。南方向には小塩遺跡が位置している。

栄町遺跡・栄町東遺跡は、弥生時代・中世の遺物散布地である。大日寺遺跡は、これまでの調査で、弥生時代の溝、古墳、中世の墓、建物跡などが検出されている。平成11年度の調査で検出した中世の墓からは、多くの12～13世紀にかけての貿易陶磁が出土している。喜多町遺跡は古墳時代の集落遺跡であり、中世の遺構・遺物も若干検出されている。上田町遺跡は、古墳時代・中世の遺物散布地である。上原北遺跡は、中世の集落遺跡であり、平成６年と平成12年の調査によって、14世紀～15世紀にかけての掘立柱建物跡群、炭焼窯群などが検出されている。居住域と手工業生産域が一体となって位置しており、当時の集落の様相を窺う上で重要である。小塩遺跡は縄文～奈良時代の複合遺跡であり、古墳時代後期の集落遺跡が検出されている。

なお、烏帽子形城跡の北東１kmの天見川の対岸には、河合寺城跡が、北東４kmには金胎寺城跡が位置している。

２．遺跡の概略

烏帽子形城は、「高低差のある堀・土塁を効果的に配置し」、主郭と腰郭を一体的に防御する点が特徴としてあげられている（河内長野市教委2001）。城域は、東西200m、南北150mの規模を有する。

最高所を占める中心部には主郭が位置している。主郭の規模は東西15m、南北50mであ

第9図　ＥＢＳ05－４調査区位置図（1/1000）

り、南北に細長い形状を呈している。この場所は、昭和63年に発掘調査が行われており、礎石建物が検出され、瓦、土師皿、土師器羽釜、瀬戸美濃の天目茶碗、貿易陶磁の白磁が出土している。瓦は、平瓦と丸瓦が中心であり、若干の軒平瓦・掛丸瓦が出土している。丸瓦の凹面に残るユビキ痕はすべてAで、斜位に施されていた。また瓦当に残る軒平瓦の文様はいずれも青海波紋であり、15世紀後半から16世紀前半の技術で製作されている。白磁は、端反皿であり、16世紀第3四半期のものである。瀬戸美濃の天目茶碗は、16世紀第3四半期のものである。羽釜は、土師質に焼成されており、頸部は直線的に立ち上がり口縁端部は内傾している。16世紀前半の特徴をしめしている。

烏帽子形城跡の構造にあらためて、検討を加えた中井均氏の見解によれば、この主郭は、「東西幅5～15mと非常に狭く、兵の駐屯場所としての郭としてはふさわしくない。」とし、多聞櫓・櫓を配した大土塁として構築された可能性を示唆した。また、城郭に瓦葺建物が導入されるのが、安土城以降であることを述べ、主郭で見つかった15世紀後半から16世紀前半の瓦については、より古い時代に葺かれた近隣の寺院からの転用品と推測した（中井2001）。

主郭の東隅及び南側には、腰郭が位置する。腰郭は東西約35m、南北約70mの規模を有しており、主郭との高低差は約3.5mある。昭和63年の調査では、この場所に2本の調査区が設定され、複数の整地層が検出されており、瓦、備前の擂鉢、甕、土師皿、砥石が出土している。遺物はいずれも16世紀後半のものである。中井氏は、この腰郭と主郭を合わせた範囲を主郭として把握している。

主郭と腰郭の周囲には、横堀が巡っている。横堀は、土橋によって分断されているが、土橋を挟んで食い違いになるように掘られている。堀底部に仕切りなどの施設はない。堀底部と腰郭の高低差は、約3～4m程度存在する。

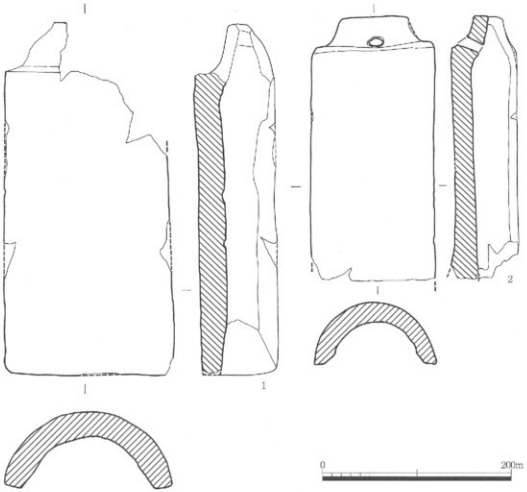
腰郭に接続する土橋は、幅7～8m、長さ15mである。腰郭に通じる場所は、虎口となっており、ここを通る道が城の大手となっている。

横堀の外周には、土塁が巡っている。土塁は、幅10～15mであり、横堀底面部から土塁上面までの比高差は、0.5～0.8m程度である。

土塁のさらに外側には、尾根続きとなる西・東・南部を中心として、部分的にさらに横堀が巡っている。このような外郭の横堀は、織豊期に改築された際に増設されたものと推定されている（中井2001）。

2重の横堀のさらに外側には城域の西端と東端に、尾根を切断するために、堀切が尾根筋に直行するように掘られている。

村田氏は、以上のような烏帽子形城跡の基本形が「コ」の字状であることを述べ（村田1987）、中井氏も、郭が方形を呈する古い様相を示す構造が基本となり、改修が後に加えられたものとしている（中井2001）。



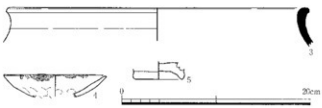
第10図　ＥＢＳ05－４出土遺物実測図１（1/4）

３．調査に至る経緯と目的

本次調査は、市指定史跡である烏帽子形城跡について今後の保存・活用のための基礎的な資料を得るために行った。前節で述べたように、烏帽子形城跡は、主郭及び腰郭については、すでに調査が行われており、一定の成果をあげている。しかし、堀切、横堀や土塁については、未だ調査が行われていなかった。

今回の調査は、主郭と腰郭をめぐる横堀及び、城域を西から続く丘陵部から切断している堀切の本来の形状の把握と、横堀に堆積した流入土の状況の把握を目的として、第１調査区と第２調査区の２箇所の調査区を設けた。第１調査区は、堀切部にＴ字状に設定した。第２調査区は、腰郭にいたる土橋の北側に位置する腰郭の東側に巡る横堀に設定した。

調査は平成18年１月16日に開始し、平成18年２月24日に終了した。調査では、まず調査区周辺の枯れ木・落ち葉の除去と除草を行い、現況での写真の撮影と測量を行った後、人力により地山面まで掘り下げ、地山面で遺構検出を試みる一方で、調査区壁で土層の観察を行い、記録の作成を行った。遺構については、検出できなかったが、土層の観察や出土した遺物から、従来知られていなかった新たな情報を得ることができた。また、遺物は、



第11図　ＥＢＳ05－４出土遺物実測図２（1/4）

層単位で取り上げを行っている。

調査成果については、遺構を中心としてすでに報告を行なっており、今回は、出土した遺物についての報告を行なう。

4．遺物（第10・11図、図版８）

今回報告する遺物は、第２調査区の遺物包含層（41層）（河内長野市教育委員会2006）より出土した。この層の上面に土塁が構築されており、出土した遺物は土塁の構築時期を考える上で重要である。

１は、丸瓦である。全長は37cm、厚さは、2.6cmであった。玉縁は、長さ６cm、厚さ1.5cmであり、丸瓦部に斜め方向に取り付けられている。２は、丸瓦である。全長は39.5cm、厚さは、２cmであった。玉縁は、長さ5.5cm、厚さ1.9cmであり、丸瓦部に斜め方向に取り付けられている。３は、瓦質土器の甕である。鋤柄編年のⅡ－３類であり、15世紀中様のものである。４は、土師皿である。口径11cmであった。口縁部には、煤が付着しており、底部外面には指頭圧痕がみとめられる。５は、台付皿の高台である。

5．まとめ

烏帽子形城跡の主郭で検出された瓦葺の建物がどの時点で築造されたものであるのかが、これまで不明であった。従来、この建物が検出された遺構面から16世紀後半の遺物が検出されていたことや、城郭に瓦葺建物が導入されるのが主に安土城以降であることなどから、豊臣秀吉の根来攻めの際に、土塁の構築や外堀とともに構築されたものと考えられていた（中井2001）。しかし、今回の調査では、瓦を大量に含んだ遺物包含層の上に、土塁が構築されている状況が確認できた。

出土した丸瓦には、大小２種類の規格がみとめられる。既往の調査では、主郭部より丸瓦が出土しているが、これらは、今回出土した丸瓦のうち、小さい方と規格が一致する。

（太田）

・河内長野市教育委員会2001『河内長野市城館分布調査報告書』
・河内長野市教育委員会2006『河内長野市埋蔵文化財調査報告書ＸＸＶ』
・中井均2001「烏帽子形城の構造について」『河内長野市城館分布調査報告書』
・村田修三1987『図説中世城郭事典』第３巻
・鋤柄俊夫1987「中世前期における大阪南部の甕生産」『考古学と地域文化』

第４節　三日市遺跡（ＭＩＣ06－２）

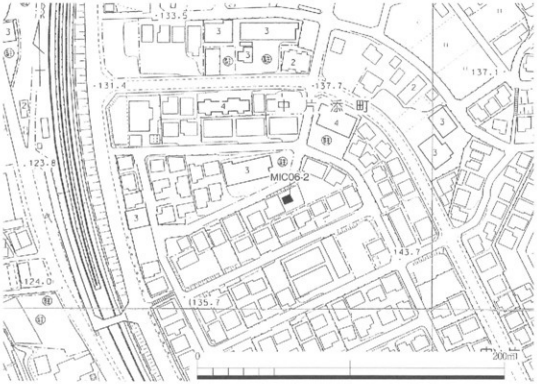
１　概略

三日市遺跡は金剛山地を水源とする天見川と石見川が合流する地点の石見川左岸、標高125～165ｍの段丘上に立地する。当遺跡は旧石器時代から近世にかけての複合遺跡であり、主な遺構として縄文時代中期の土坑、古墳時代中期の小型方墳や竪穴住居、掘立柱建物、古墳時代後期の横穴式石室をもつ古墳、中世の集落跡、近世の墓地や寺院跡、瓦窯などが検出されており各時代とも非常に内容が充実している。

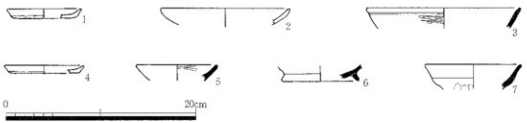
本調査は個人住宅建設に先立ち実施した。調査は建物の基礎工事の影響を受ける範囲、約20㎡を対象とした。

２　調査の方法と層序

住宅建設予定地の南側で行った事前の予備調査ではGL－35cmで包含層と遺物が発見されたため、調査区は住宅建設予定地で長辺約５ｍ×短辺約４ｍのトレンチを設定した。調



第12図　ＭＩＣ06－２調査区位置図（1/2500）



第13図　ＭＩＣ06－２出土遺物実測図（1/4）

査は建物の基礎深度（GL－45cm）まで機械掘削したが包含層には至らず、その水準で精査を行なったが、包含層や遺構の検出はし得なかった。基本層序は現地表から盛土（層厚30cm）、10YR5/3茶褐色細砂混じりシルト（層厚10cm・耕土）、10YR6/8明黄褐色粘土（層厚５cm・床土）である。

3　調査の結果　（第12・13図、図版８）

包含層や遺構は検出し得なかったが、予備調査時に土師質皿（２）、瓦器皿（５）、瓦器碗塊（６）、須恵器が出土した。また調査地の北側は比高約２ｍの崖になっており、この斜面から土師質皿（１・４）、瓦器塊（３・７）、土師質羽釜を採取した。

4　まとめ

今回の調査ではトレンチ南側の予備調査地点と北側の崖で包含層を確認した。調査地周辺は北側を流れる石見川に向かって傾斜しており、包含層も南から北に向かって傾斜していることが明らかになった。今回の調査地の西側では、中世の建物群と墳墓と考えられる集石が検出されており、更に集落が東側へ広がっていたと考えられる。

（小林）

図　　版

図版1　観心寺遺跡（KST05—1）

第1調査区全景（北から）

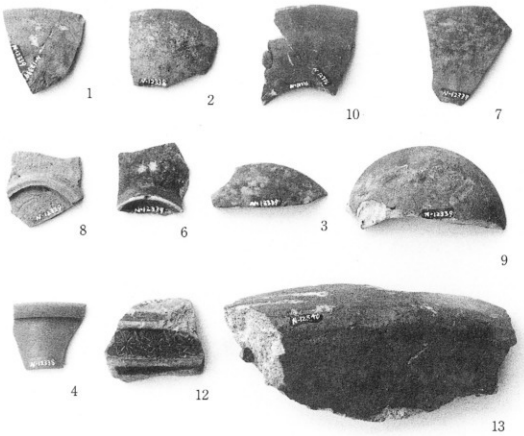
図版2　観心寺遺跡（KST05—1）

第2調査区全景（南東から）

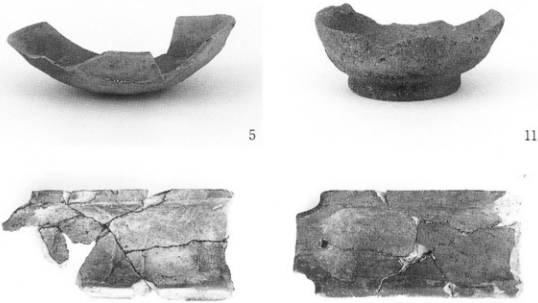
図版3　観心寺遺跡（KST05—1）

第3調査区全景（北から）

図版4　観心寺遺跡（KST05－1）・烏帽子形城跡（EBS05－4）



KST05－1（1～4・6・10・12・13）



KST05－1（5・11）・EBS05－4（1・2）

図版5　観心寺遺跡（KST06—1）

第1調査区全景（南から）

第2調査区全景（南西から）

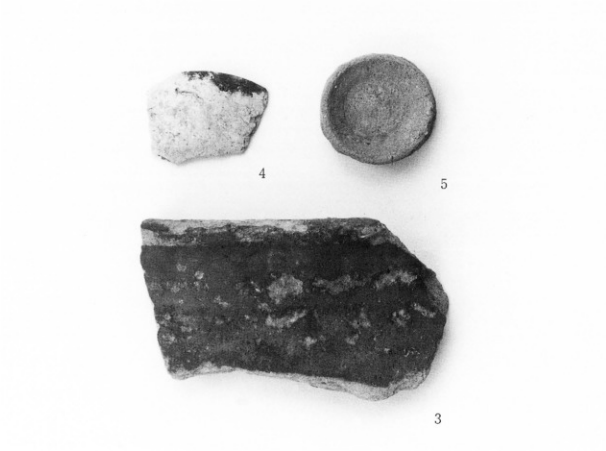
図版6　観心寺遺跡（KST06—1）

第3調査区全景（南東から）

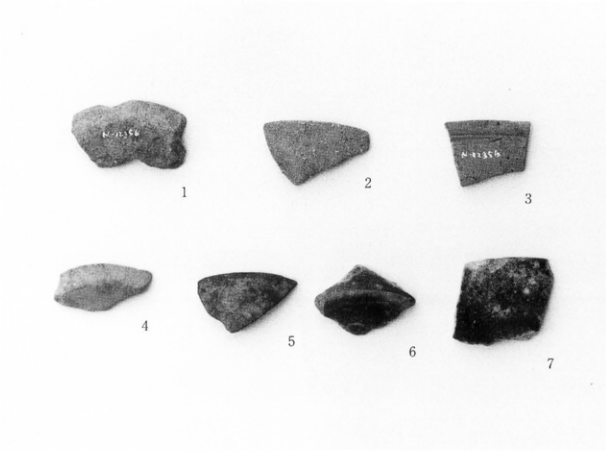
図版7　観心寺遺跡（KST06—1）

上：第5調査区全景
（南西から）
下：第4調査区全景
（北東から）

図版8　烏帽子城跡（EBS05－4）・三日市遺跡（MIC06－2）



EBS05－4（3～5）



MIC06－2（1～7）

報告書抄録

ふりがな	かわちながのしまいぞうぶんかざいちょうさほうこくしょ
書名	河内長野市埋蔵文化財調査報告書ＸＸⅥ
副書名	観心寺遺跡　烏帽子形城跡　三日市遺跡
シリーズ名	河内長野市文化財調査報告書
シリーズ番号	第47輯
編集者名	太田宏明　小林和美
編集機関	河内長野市教育委員会
所在地	〒586－8501　大阪府河内長野市原町一丁目１番１号 TEL0721－53－1111
発行年月日	2007年３月31日

所収遺跡	所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡					
観心寺遺跡	大阪府 河内長野市 寺元	大阪府 河内長野市 寺元	府4 河3	34° 20′ 06″	135° 30′ 36″	H18.3.24 ～ H18.3.31 H18.7.10 ～ H18.8.7	約50㎡	範囲確認調査
烏帽子形城跡	大阪府 河内長野市 喜多町	大阪府 河内長野市 喜多町	府24 河20	34° 26′ 19″	135° 34′ 04″	H18.1.16 ～ H18.2.3	約20㎡	範囲確認調査
三日市遺跡	大阪府 河内長野市 中片添町	大阪府 河内長野市 中片添町	府68 河56	34° 25′ 54″	135° 34′ 17″	H17.10.3 ～ H17.10.4	約20㎡	個人住宅

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
観心寺遺跡	寺院	中世 ピット	中世 ピット	瓦器	
烏帽子形城跡	山城	中世	壕	瓦	
三日市遺跡	集落・古墳他	旧石器～近世	なし	土師質土器・瓦器	

河内長野市文化財調査報告書第47輯
河内長野市埋蔵文化財調査報告書ＸＸⅥ

観心寺遺跡
烏帽子形城跡
三日市遺跡

2007年３月31日発行

発行　大阪府河内長野市原町一丁目１番１号
河内長野市教育委員会
0721－53－1111
印刷　（株）近畿印刷センター